

I 日常生活に溶け込む既存の公共交通の磨き上げ		現状値	令和2年度実施状況	今後の取組
デマンド交通の利便性の向上				
No.1	デマンド交通ひめさゆりの全日運行 【中間目標値:80,000人、最終目標値:83,000人】	デマンド交通利用者数 72,698人（平成28年度）	57,989人	新型コロナウイルスの影響もあり、前年と比較して2割程度減少しているため、そうした影響を加味しつつ、No.5の取組等を通じて利用促進を図る。
No.2	多用者に対する負担軽減策の検討	—	負担軽減策の最善解を複数乗車の推進と捉え、複数乗車を推進していくための予約受付システム（アプリ）について民間事業者の情報収集を行った。	引き続き検討を行う。
No.3	生活交通路線の見直しの検討	路線バス利用者数 70,510人（H27.10～H28.9）	継続運行 41,601人（R元.10～R2.9）	新型コロナウイルスの影響もあり、対前年度比で3割近くの大きな減少となった。 既存路線バス（八木ヶ鼻温泉線）の一部を令和3年4月から大学・専門学校前停留所まで延伸し、利用者の拡大を図る。
No.4	地域主体のコミュニティバス拡大の検討 【中間目標値:1地区、最終目標値:2地区】	1地区でコミュニティバスを運行	自治会からの照会はなかった。	運転手の確保と運行費（ガソリン代等）の確保が困難との理由で実現に至らないことが過去にあった。当協議会としては、今後も地域のコミュニティバス導入支援に努めていく。
No.5	デマンド交通利用促進に向けた出張講座の実施	—	11か所を実施	デマンド交通やおでかけバスを知らない方もいることから、新型コロナウイルス発生の状況を踏まえつつ、開催可能な団体においては引き続き説明会に赴いて周知を図る。
高校生のバス等利便性の向上				
No.6	循環バスぐるっとさんの一部コースの見直し等の検討	循環バス利用者数 31,708人（平成28年度）	継続運行 25,638人	令和3年4月から南コースの回り方を変更して、三条市立大学の学生利用に対応する。
No.7	高校生通学ライナーバスの利用促進 【中間目標値:6,050人、最終目標値:6,050人】	高校生通学ライナーバス利用者数 6,062人（平成28年度）	市内全中学校卒業生にチラシを配布した。 市内中学校卒業生にチラシを配布した。	現運行の更なる利用促進を図るため、通学でバスを利用する機会の多い三条高校在学学生にチラシを配布するなど周知に努める。
No.8	バス待合環境の整備	—	No.7と合わせて東三条駅前駐車場の情報を掲載したチラシを配布するとともに、同駐車場のPRイベントを実施した。	駅前の店舗と連携し、店舗で購入した品物を駐車場で飲食してもらうなど駐車場で滞留促進によるバス待合環境の整備に努める。
No.9	鉄道の運行ダイヤ見直しの要望	—	JRへ要望	引き続き要望を行う。

II まちづくりのエリアを意識した外出で利用される公共交通の構築				
イベント等で利用しやすい交通体系の整備				
No.10	デマンド交通おでかけバス購入拡大 【中間目標値:350人、最終目標値:500人】	230人（平成28年度）	288人	令和2年度は、運転免許証返納時にバスを無料で交付してバスの利用促進を図り、50人が申請した。更なる周知を図る。
No.11	デマンド交通おでかけバスの協賛店の拡大 【中間目標値:85店舗、最終目標値:100店舗】	70店舗（平成28年度）	高齢者が訪れる機会の多い市内スーパーへ協賛店の加盟依頼に出向いたものの、拡大につながらなかった。 62店舗	No.10の取組を通じておでかけバスの利用が進み、それを受けて協賛店を拡大できるよう引き続き協賛店の募集を行う。
III 観光における二次交通の充実				
観光拠点に向けた交通機能の充実				
No.12	八木ヶ鼻温泉線の見直しの検討	路線バス利用者数 70,510人（平成28年度）	バス事業者と、No.3の今後の取組の実現に係る協議を行った。	引き続き、費用面と利用状況を軸にした見直しを検討する。
No.13	デマンド交通を活用した観光企画の検討 【中間目標値:56か所、最終目標値:60か所】	観光スポットに設置するデマンド交通停留所数 52か所（平成29年度）	工場の祭典WEB配信のため、実施できなかった。	工場の祭典がWEB配信になったため、実施できなかった。通常の実施になった際に再度臨時停留所を設置予定。
No.14	八十里越開通後の只見方面の運行の検討	—	運行の検討に向けた事務的なスケジュールを立案した。	時機を見て只見町担当者との話し合いを始められるよう準備に取り組む。